おーい！くじらぐも

Vol.49　2025 年（令和 7 年）7 月号

発行人：（福）健翔会　相談支援センターくじらぐも
所在地：埼玉県行田市小見 1141 番地 1
TEL：048-580-3634　FAX：048-554-8814
MAIL：kujiragumo@kenshokai.net
発行責任者：くじらぐも　センター長　細川竜太

福祉サービスを利用するためには「くじらぐも」が作る『サービス等利用計画』が必要です。

「くじらぐも」は障害者総合支援法により、障害者・障害児に対し相談支援事業を提供する健翔会の第 4 号事業所です。

福祉サービスに限らず、生活のお困りごとなどもご相談ください。解決策をご一緒に考えましょう。

少し古いですが 1990 年公開の映画「遥かなる甲子園」を紹介します。沖縄に実在した風疹聴覚障害児のろう学校生徒たちが幾多の困難を乗り越え硬式野球部を作り、甲子園を目指す物語です。

生徒たちは、硬式野球部を作りますが、ろう学校が日本高等学校野球連盟に加盟できないことで、大会はおろか他校との練習試合もできないことを知ることになります。

特例として、沖縄大会への出場が認められ、必死に練習に励みます。夢・友情・感謝、そんな思いがたくさん詰まった作品です。ぜひ見つけてご覧になってください。

『グループホームで暮らすこと
～合う合わない　合わせる合わせられない～』

相談支援センターくじらぐもでは、障害のある人の自立に向けて、グループホームの紹介をしてきましたが、今回はグループホームで生活するうえでの、デメリットを紹介します。なお、今回の紹介は、くじらぐもが経験したことを元にしていることをご承知おきください。

グループホームで生活することが「心身とも安定した暮らし」に、繋がることもあれば、繋がらないことも知っておいていただければ幸いです。

①朝の生活導線で問題が発生しやすい

共同生活の場合、特に朝は入居者の動きが同じになる傾向があります。そのため、洗面所やトイレが混みやすく、当然空くのを待つ必要があります。他の入居者の動きを確認して動かないと、外出時間に間に合わないということもあり得ます。また、入居者のなかには、朝のルーティンについてのこだわりが強く、順番が崩れるとパニックになる人もいます。まわりの動きを見ることが苦手だったり、予定していたことが上手くこなせないことで不安を感じる人は、ストレスになるかもしれません。

②入居者・世話人・職員の入れ替わりに伴う環境の変化

グループホーム内の他者との関係性が良好のときは、生活するうえでのストレスはそれほどかかりませんが、退職に伴う世話人、他入居者の入れ替えなどで、相性や関係性を一から築くことなどは、口で言うほど簡単なものではありません。それなどの理由から、上手くいっていた共同生活が急にストレスフルになることも知っておく必要があります。

③他の入居者の障害特性を受け入れられない

ほとんどのグループホームは、障害支援区分や障害種別が同程度の障害のある人を受け入れる傾向にはありますが、空き部屋の関係や緊急案件などにより、それがバラバラになることも考えられます。説明は行いますが、その人の動きや言動に理解を示せず、トラブルになることも多いように感じます。

グループホームで暮らすことは、障害のある方が利用できる福祉サービスの一つです。その選択をした後、生活に適応できなかったとしても、必ずその人に合った暮らしが見つかるはずです。くじらぐもは、そんなお手伝いも承ります。一緒に考えていきましょう。

＜7 月のトピックス＞

最近、いつ涙を流しましたか？世間では涙活といって涙を流すことで気持ちをスッキリさせるのだそうです。私は、先日車の点検で、ディーラーに行ったときのことです。キッズコーナーで、赤ちゃんがお父さんと遊んでいて、その赤ちゃんが声を出して笑っていました。その声が愛おしくて、愛おしくて、つい涙が･･･。とても幸せな気持ちになりました。